

# 2014年沖縄週間／沖縄の旅 参加のごあんない

6月20日（金）～23日（月）

ぬち

たから

## 命どう宝 ～御心が行われますように～

「これらの小さい者が一人でも滅びることは、あなたがたの天の父の御心ではない。」

マタイ 18:14

先日、久しぶりに「ジュゴンの見える丘」を訪れました。お天気もよく、海も美しく穏やかでした。この辺野古・大浦湾に、日米政府はV字型滑走路を造ろうとしています。世界一危険な普天間基地の負担軽減のためということです。普天間で危険にさらされている命も、辺野古・大浦湾で危険にさらされている命も、同じ重さのかけがえのない命です。私は美しい海を見つめながら、1992年リオデジャネイロで開催された環境サミットでなされた、当時12歳であったセヴァン・カリス・スズキさんの講演を思い出しておりました。「・・・絶滅した動物をどうやって生きかえらせるのか、あなたは知らないでしょう。そして、今や砂漠となってしまった場所にどうやって森をよみがえらせるのか、あなたは知らないでしょう。どうやって直すのかわからないものを、こわしつづけるのはもうやめてください。・・・もし戦争のために使われているお金をぜんぶ、貧しさと環境問題を解決するために使えばこの地球はすばらしい星になるでしょう。・・・」

それにしても、今まで沖縄において、元へ戻す方法や直す方法がわからない自然や生き物、そして人間までもが、どれほど壊され傷つけられてきたことでしょうか。

第2次世界大戦末期1945年3月26日、米軍は慶良間諸島に上陸し、続いて4月1日には沖縄本島西海岸に到達しました。日本軍は本土決戦を遅らせるために、沖縄を不沈空母化しようとしませんが、島の形が変わるほどの爆撃（鉄の暴風）を受け、6月下旬、壊滅状態となり組織的な戦闘は終結します。沖縄は本土の「捨て石」とされました。その折、住民の集団自決など悲劇も生まれました。国内で唯一の住民を巻き込んでの地上戦となった沖縄戦で、米兵を含め20万人以上の死者が出ましたが、このうち沖縄の人々（民間人）の犠牲は、半数の約10万人に及びました。しかし沖縄の人々の苦難はこれで終わりません。戦後、沖縄の人々は米軍により収容所に入れられ、米軍はその間に広大な土地を接収し、基地として使い始めます。更に、自分の土地に戻った人々も銃剣とブルドーザーで強制的に土地を奪われ、米軍は基地を拡大し、遂には現在日本の国土面積の0.6%でしかない沖縄に、在日米軍施設約75%が集中するという結果になってしまいました。

1951年4月28日サンフランシスコ講和条約が締結され、日本は国際社会に復帰しますが、沖縄は米軍統治下におかれ続けます。米軍統治下におかれた沖縄には、日本の平和憲法も米国の憲法も適用されませんでした。日本の国際社会復帰と引き換えに、沖縄は米国の軍事基地とされたのです。あまりの米軍兵士の横暴と愚列な振る舞いから、1970年12月20日未明、積み積もった住民らの不満がコザ市（現沖縄市）で爆発します。

昨年安倍政権は、4月28日を「主権回復の日」としてサンフランシスコ講和条約締結を祝い式典をしましたが、沖縄の人々にとっては、2度目の「屈辱の日」となってしまったわけです。1972年5月15日沖縄は本土復帰を果たしますが、それは平和憲法への復帰ではなく、日米地位協定・日米安保条約への復帰でありました。米軍の軍事拠点という現実が変わらぬまま、今尚騒音問題や婦女子への暴行など心痛む事件・事故が続いています。沖縄の人々の期待は、全く裏切られて今に至っています。この沖縄が置かれ続けている現実また現状を、私たちはぜひ知らなければなりません。

今回の旅では、1日目に、コザの町に立ち、いわゆる「コザ暴動」について、証言を伺い、その背後にあるものを学び、2日目には辺野古に立ち、正義と平和の実現のために私たちは何をしなければならないか、また沖縄の人々の闘いにどう連帯できるのかを考えます。


今回の旅の主題は「命どう宝～御心が行われますように」、聖句には「これらの小さい者が一人でも滅びることは、あなたがたの天の父の御心ではない。」(マタイ 18:14)と致しました。神の御心は、いと小さき者のいのちが守られ生かされることです。しかし、沖縄の現実においては日々かけがえのないいのちが傷つけられ続けています。皆様と神の御心が実現するように、沖縄の地で祈りを深めたいと存じます。皆様の積極的な参加を、特に、まだ沖縄の旅に参加されたことのない方々の参加を、よろしく願いいたします。

(正義と平和委員会沖縄担当 司祭アンデレ磯晴久)

※2010年第58(定期)総会にて、これまでに続いて「沖縄週間」の継続が決議されました。

これは、日本聖公会の全教区・教会が沖縄の現実に思いを寄せ、私たち自身が主の平和を求めて祈ることを目的とするものです。

沖縄教区と日本聖公会 正義と平和委員会は、この週間にあわせ、沖縄の歴史及び現在を学ぶ旅を行い、全国の皆さんをお誘いしています。ぜひ、多くの方々のご参加をお待ちしています。



### 沖縄週間の祈り

歴史と生命の主である神よ、私たちを平和の器にしてください。

嘆きと苦しみのただ中にあなたの光を、

敵意と憎しみのただ中にあなたの愛と赦しをお与えください。

私たちの出会いを通して悲しみの中に慰めを、痛みの中に癒しを、


疑いの中にあなたへの信仰を、主よ、豊かに注ぎ込んでください。

この沖縄週間を通して私たちを新たにし、

あなたの示される解放と平和への道を歩む者としてください。

私たちの主イエス・キリストのいつくしみによって、

このお祈りをお献げいたします。アーメン



主催 日本聖公会 沖縄教区  
日本聖公会 正義と平和委員会

## 参加のしおり

### \*航空券手配について\*

3日目の6月22日（日）の宿泊と共に、市販の「ホテルパック」で手配されることをお勧めします（航空券とホテルを別にとるよりも安く購入できます）。各地発及び帰りの沖縄発の時間はできる限りプログラムに支障のないようにご設定ください。

### \*宿泊について\*

- ・1日目 20日の宿泊は当方で沖縄市にあるホテルを手配します。
- ・2日目 21日（教会分宿）の宿泊先は基本的には当方で手配します。
- ・3日目 22日の宿泊先は、翌23日のプログラム「戦跡に立つ」が小禄聖マタイ教会出発ですので、那覇市内で、なるべく小禄聖マタイ教会に近いホテル（同封地図参照）をご手配ください。

（22日は教区「慰霊の日」礼拝後、夜、小禄聖マタイ教会での交流会をし、ホテルへ移動となります。23日は9時に小禄聖マタイ教会を出発します。参加者には後日詳細をお知らせします。）

- ・費用を抑えたい方は22日、小禄聖マタイ教会への宿泊等も手配できます。

### \*費用（概算）\*

- ・20日 ホテル 6,000円
- ・21日 教会分宿 3,000円
- ・22日 ホテルパック（各自）
- ・フィールドトリップ参加費 8,000円（精算の上、追加徴収があるかもしれません。）
- ・食事代（20日夕・21日昼・22日夕・23日昼）

2,000円程度

合計金額 各地からのホテルパック + 19,000円程度

### \*集合時間・場所\*

13時までに 那覇空港1階「到着口B」付近へ。係の者が立っています。

各自昼食を済ませてお集まりください。集合の後、バスに乗り、フィールドトリップに出発しますので、くれぐれも時間厳守でお願いします。

### \*スタッフ\*

- ・沖縄教区：司祭金 汀洙、司祭高良孝太郎、富本盛彦、並里 厚、司祭岩佐直人、  
執事並里輝枝、執事西平妙子、高良孝子、主教上原榮正、
- ・正義と平和委員会：司祭磯 晴久、中村真理、佐藤由佳、司祭柴本孝夫

### \*締め切り\* 5月 5日（月）

〒162-0805 新宿区矢来町65番地 日本聖公会管区事務所 正義と平和委員会宛  
電話03（5228）3171 FAX 03（5228）3175

# 2014年沖縄週間／沖縄の旅 プログラム

6月20日（金）～23日（月）

今回は、「命どう宝 ～御心が行われますように～」というテーマのもとプログラムを構成しています。以下、トピックを記します。

- 20日：集合しフィールドトリップ「コザの町に立つ」。島袋諸聖徒教会にて受付。  
開会礼拝。講演会「基地のある町 コザ暴動を知る」と質疑応答。当方手配のホテルへ
- 21日：沖縄市のホテルよりバスで出発。辺野古へ。新基地建設阻止のための座り込みに参加。  
午後、名護聖ヨハネ教会へ移動し、分かち合い。夕方、分宿のため各教会へ。
- 22日：分宿先教会の主日礼拝に参加、午後、沖縄教区行事「慰霊の日」礼拝に参加。  
夕、交流会。分かち合い、平和への取り組み・行動の今後について。  
各自手配のホテルへ宿泊。
- 23日：小禄聖マタイ教会をバスで出発し沖縄県慰霊の日「戦跡（魂魄の塔）に立つ」。閉会礼拝、  
昼食後、13時解散。

日 時	1日目	2日目	3日目	4日目
	6月20日(金)	21日(土)	22日(日)	23日(月)
8:00		9:00 フィールドトリップ 「辺野古に立つ」  辺野古へ。 新基地建設阻止のため の座り込みに参加	朝食 各教会にて	朝食 ホテル 移動 9:00 小禄聖マタイ教会出発 沖縄県慰霊の日 「戦跡（魂魄の塔）に立つ」  11:30 閉会礼拝
9:00				
10:00			各宿泊教会の礼拝 に出席	
11:00				
12:00	昼食	昼食	昼食	
13:00	13:00 集合（那覇空港）出発	名護聖ヨハネ教会へ 移動	移 動	解 散
14:00	フィールドトリップ 「コザの町に立つ」	14:00 分かち合い		
15:00	嘉手納基地を望む 沖縄（コザ）市内 見学・散策	15:30 教会分宿先へ移動	沖縄教区行事 「慰霊の日」礼拝参加 会場：北谷諸魂教会	
16:00				
17:00	受 付（島袋諸聖徒教会） 開会礼拝	各教会に分宿	移 動（分乗し、 小禄聖マタイ教会へ）	
18:00	オリエンテーション・夕食			
19:00	講演会 「基地のある町 コザ暴動を知る」 質疑応答		小禄聖マタイ教会 にて 交流会 意見交換 ホテルへ移動	
20:00				
21:00	就寝前の祈り ホテルへ移動			
宿泊	当方手配のホテル	各教会に分宿	各自手配のホテル	

## お申し込みの際して

- 下記申込書にご記入の上、日本聖公会管区事務所 正義と平和委員会宛にお送りください。  
〒162-0805新宿区矢来町65番地 TEL 03(5228)3171 FAX 03(5228)3175
- 航空券手配、宿泊場所について、その他  
『参加のご案内』の「参加のしおり」をよくご覧ください。
- 締切日は5月5日(月)です。

----- キリトリ -----

### 2014年 沖縄週間 / 沖縄の旅 申込書

ふりがな		年 齢	性 別
氏 名		歳	男 ・ 女
		※宿泊の部屋割り等の判断材料とさせていただきます。	
住 所	〒		
電 話	( )	FAX	( )
携帯電話	( )	Email	
所属教区 所属教会	教 区		教 会
利用航空便について			
往	日	便	那覇空港 着 時刻 :
復	日	便	那覇空港 発 時刻 :
宿泊について			
22日	ホテル ( ) ・ 小禄聖マタイ教会 ※決まっていればホテルを記入。教会宿泊を希望する場合は○で囲んでください。		
食事について (必要なところにチェックマークを入れてください。)			
<input type="checkbox"/> 20夕 <input type="checkbox"/> 21昼 <input type="checkbox"/> 22夕 <input type="checkbox"/> 23昼			
自己紹介欄 (ご自由にどうぞ。参加動機などもお聞かせください。)			